



特
遠 13
2209
58

繪本豊臣勲功記六編卷之八

目錄

柴田勝家總軍孔入越中

屬景勝斥候

森瀧川從上信殺投越後

屬森謀得勝

繪本豊臣勲功記六編卷之八 目錄

柴田勝家以謀陷魚津城

属 聆變還軍

森勝藏听逆爰還軍上方

属 清洲大會



繪本豊臣勳功紀六編卷之八

櫻澤堂山 編輯



柴田勝家總軍乱入城中属 景勝斥候

義へ氣とり發して鬼と眼さめ。仁へ心より生れし神と帰せしめ。勇へ只其幽を恐まのそ。這差別ある軍は落し。柴田修理進勝家。信長公先年。越前退治り。后勝家との北國の藩鎮となり。然し。亦此歳の四月。武田一家に代せられ。其刻當。越後と。り。賜り。勝家北國へ出陣。上杉。彈正。少弼。景勝と合戦す。然るに當時。景勝へ。弱年。多。故。入道。孫。信の威勢を續ぎ。隣國の緒侍。悉く。これ。幕。下。帰。属。なり。智勇の將士。依。最。多。堅固。

小守復こしゅふく一いつねに。容易やす小退治こたいぢなりが。茶田ちやでん。龍川りゆうせん。森もり。佐さ久間ひさま。金勝かねかつ家いへ。小徳ことく力ちからと勅あまのさしせ。國くにの勢せいと催もよほ使し。緒方おのりかたより時ときを伺うかがふなり。越後えちごを一舉いつしき小攻撃ここうげきす。上杉うさぎ。景勝かげかつを斬き爾しかさんと。準備じゆんびの轉まわ居りあり。柴田しばた。勝家かつや。佐さ久間ひさま。玄蕃げんぱん。元盛もとむね。改かへ。柴田しばた。成改なるかへ。真守まもり。茶田ちやでん。又また。大田おほの。切き。口くち。一いっ。殺ころ。投な。龍川りゆうせん。左ひだり。邊へ。將しょう。監けん。一いっ。益えき。伊賀いげ。守もり。勝かつ。豊ゆき。係けい。と借か。小こ。越中えちゅう。中なかつ。より。乱らん。入いり。森もり。勝かつ。森もり。長なが。一いっ。信のぶ。高たか。田たに。切き。口くち。一いっ。殺ころ。投な。龍川りゆうせん。左ひだり。邊へ。將しょう。監けん。一いっ。益えき。猶なほ。子こ。儀ぎ。太た。夫ふ。詮せん。益えき。を遣つか。治ちや。田たに。より。三さん。國くに。當あた。行ゆ。り。越後えちご。の國くに。へ。乱らん。入いり。せん。と。這こ。時とき。上かみ。杉すぎ。景勝かげかつ。八やち。春はる。日ひ。頭かぶ。城しろ。郡ぐん。今いま。町まち。小こ。進しん。一いっ。這こ。城しろ。と。小こ。在あ。城しろ。と。這こ。領りやう。伸のび。と。听き。より。も。登のぼ。速すみ。防ぼ。禦ご。の。高たか。嶽たけ。を。定さだ。め。それ。緒勢おのせ。と。分わ。探たん。して。柴田しばた。が。軍勢ぐんせい。と。

遮さへ。か。ん。と。す。勝家かつや。が。攻せま。向むか。小こ。原はら。の。越中えちゅう。中なかつ。松まつ。余あ。の。城しろ。中なか。へ。河田かた。豊ゆき。茶ちや。守もり。小こ。ね。派は。ち。と。せ。同どう。國くに。魚津うづ。の。城しろ。中なか。へ。若わ。江え。織おり。初はつ。正せい。と。對たい。凝ねい。守もり。らせ。其その。外ほか。三さん。月つき。末すえ。盛むね。あ。と。も。加か。勢せ。小こ。遣つか。と。凡およ。個こ。と。小こ。若わ。江え。喜き。江え。島しま。の。中なか。条じょう。越えち。茶ちや。守もり。寺てら。嶋じま。六む。蔵ざう。若わ。江え。常じょう。陸りく。入いり。道みち。竹たけ。股また。三さん。河か。守もり。と。初はつ。と。一いっ。千せん。六む。百ひゃく。有あ。餘あま。騎き。小こ。と。守もり。城しろ。へ。向むか。と。も。柴田しばた。の。其その。勢せい。四よ。万まん。八はち。千せん。餘あま。人ひと。と。の。つ。松まつ。余あ。の。城しろ。へ。推お。進しん。と。れ。勝かつ。べ。小こ。相あ。の。看み。え。さ。り。多おほ。し。是こゝ。小こ。周しゅう。と。上かみ。杉すぎ。の。緒おの。將しょう。魚津うづ。の。城しろ。小こ。會あ。合あ。と。軍ぐん。事じ。と。高たか。嶽たけ。を。時とき。小こ。若わ。江え。常じょう。陸りく。入いり。道みち。中なか。条じょう。越えち。茶ちや。守もり。と。發はつ。言げん。と。織おり。田たに。の。軍ぐん。兵へい。六む。万まん。と。听き。バ。自みづか。方かた。と。の。り。と。比ひ。ぶ。ね。と。十じゅう。分ぶん。一いっ。と。謂い。ふ。一いっ。四し。城しろ。小こ。分ぶん。と。防ぼ。ぐん。と。り。地ち。理り。よ。き。魚津うづ。小こ。合あ。隊たい。と。拒こ。抗たい。ぐん。と。そ。

吉江喜四郎

柴田の陣よるに夜よる敵たてし

菊地入道きくちと斬きるる



宜かろくければと、粟まきと河田豊永守。これと忘れず、首をお
 振り。其義も一理ある。似たり。まご一戦も、追をばして。
 城を捨ん、言給ふ。慥にね期、小退せ、とも遅るる。死
 小。我の松倉の城、小凝守。敵を分散さ、むと。勇気
 を合で、粟まき、城將、右江織部も、これ小同意。武門小
 賢き、豊永守が、言ひ、義勇と、全させり。敵、地の理の暗さ小
 轉行。自方、自國の戦、なれば、主客の勝、あるの。遠く
 走、大將も、此地へ、所出馬、らる。あ、城、姉の、降、守、堪
 ゆるあり。左右、時日と、延、演、ある。敵、兵糧、小窮、ま。其
 時を待、自方、一驥、小弁、く、發、ある。大敵、ありと。あ、退、崩
 さ、あ、く、べき。勝利、十分、ある。あ、ま、小緒、將、も、實、中、

と、猶、受、し。高、級、此、小決、せ、し。河田、居、城、退、去、り。敵、の
 進、と、待、居、り。時、小、天、正、十、年、四、月、上、旬、柴、田、の、總、勢、四、万
 八、千、直、地、小、越、中、へ、乱、入、し。上、杉、方、の、捨、置、し。富、山、の、城、
 小、佐、が、兵、士、を、住、め、これ、守、ら、り。敵、將、景、勝、後、逼、せ、ん
 駒、擊、破、る。備、を、為、さ、せ。總、勢、と、り、魚、津、松、倉、這、兩、城、
 を、圍、ま、り。息、も、次、せ、を、攻、め、り。然、と、も、城、兵、更、小、屈、せ、ん。
 炮、矢、と、飛、し。防、戦、し。容、易、隔、つ、と、看、さ、り。小、賸、存、し。
 喜、四、郎、十、日、の、夜、と、り、菊、地、入、道、が、陣、小、夜、擊、し。隊、將、入、道、
 を、擊、破、其、外、二、百、餘、人、と、斃、す。隊、輕、く、城、小、退、籠、け、る。進、
 兵、の、緒、將、も、攻、侮、く。這、上、へ、唯、遠、卷、小、な、り。敵、の、銳、氣、と、屈、
 せ、り。と、攻、場、と、ま、き、退、る、せ。大、軍、轟、くと、陣、を、連、ね、山、谷、

豊臣記六編卷之八

三

林野さみぎりに。甲冑なぬ所もあく。軍威結く授うこ
 みぬ。これ子固く城中より。春日山へ後逼の事と乞われ。大
 将景勝これ成程。故をもん。わさうり。比と先陣へ上条彌
 又所。斎藤十将守。河田軍を傍。石動山城守一千餘騎
 魚津と當く。發向を。柴田勝家これ成程より。軍勢と
 二隊分ち。土堤と築き柵と結ひ堅固小陣と張られ
 ば。双方攻る。利趣もあく。送小兵糧のさる。成待。送る小
 松倉城の大將河田豊春も。熟く思慮と旋らまふ。進兵
 へ四万除。自方へ二千。のり。防戦まこつ。も。始終の勝利を
 のとなり。其上敵兵一万をうり。這松倉と雁へ置。除へ。僉魚
 津の城小向く。攻起る。事急あうり。多。我這城と徒

虚小。おり。魚津の落城と。醉をらん。ハ勇る。此所為なり。
 這城と捨後攻の勢の上条。齋藤石動と一隊小あり。く。
 敵陣と斬破り。魚津の城へ駈投く。自方一所小存。生
 死を共小ま。し。と心を決。城中の兵士九百餘騎。龍鱗隊
 小茶後と固小。一文字小突出く。遂小後逼の自方
 ある。上条彌又所。陣小馳投り。上条。動石。成友。倭と。勸め
 て。魚津と助けん。とのと。送され。今へ。そ。命と塵小抛て。是
 非小魚津と助けん。と。自勢一隊と大小懋。佐久間玄蕃
 が備へ。つる。先陣二陣と撃破り。魚津の城小投る。猛勢
 須彌をも崩し。金輪際をも。顛ま。く。視。みりて。勇ま
 る。んと。の。を。り。ね。く。豊春守が相行。ハ。摩利支天神の化現

河田豊前守
猛突して
魚津の
城を救ふ



小もやと。化軍も自軍も感服一多。これ小周々奥津の
 城主吉江織部も更なり。緒將大小裨悦あり。
 専ら軍機と縋トナリ。然らず小上杉景勝ハ。同月廿二日
 をめて春日山を進發あり。直に山城守景継を先陣と
 なし自身小。二陣と行列る。其勢二千五百餘騎。二日路
 小を翌日の酉過る刻迄。魚津の那邊。天神山小着陣
 せ。然とも敵ハ堅固小構へ。發挑せき。澆漢もあられ。
 傑氣の景勝。とつと敵陣と斥候せ。同月廿六日
 の正辰刻。古本新本。まじく。八月十二日とあり。へんぞさやこの日数を空し。小せんや
 春日山より。奥津まで廿五里ふる。天神山小着陣。廿日とあり。ふ
 日を送らんや。或本。二日路をせき。天神山小
 着。この日数をせき。同月廿六日。す。精兵擇出。三千餘騎。決卒
 百人前後小列せ。金の日の丸の花号。下。四本旗を翻

らせ。薙く。指くと馬騎出。敵陣近。進倚り。軍營の隈。仔
 細小目算。虚實と得と心量存。柴田佐久間。陣兵輩
 それと看より。那敵こそ上杉景勝なれ。され撃。搦んと傑
 氣の壮士軍。緋ゆき。門と勝家制止。敵小勢。出馬せ。
 何相謀。没あり。げり。疎忽。小撃。出。と。号令。嚴。
 徇。れ。陣。い。れ。も。拳。と。振。り。脛。と。撫。り。と。勒。へ。り。景。勝。ら。
 小斥候。も。緋。稍。半。時。小。至。り。ぬ。れ。も。敵。兵。更。小。出。會。さ。れ。
 射。通。章。と。作。り。と。進。士。なる。倉。田。佐。五。兵。衛。松。本。外。記。長。尾。加。賀。
 守。小。命。せ。れ。柵。隙。近。騎。進。ら。せ。紫。田。が。陣。中。射。投。む。
 勝。家。これ。破。封。園。小。筆。痕。肥。く。一。一。記。書。り。

上杉景勝為後逼出張魚津如斯。然河勢雖大軍

上杉景勝
大行候
柴田が陣へ
射章を
贈らむ



堅陣而不出軍者。雖心得覺。俟被弱。年景勝之武勇。俟致。云左者可被逐。一戰俟。誠後生之一子。振為見可申。俟已上。

天正十年四月廿六日

上杉景勝

と讀了り。傍家心中怒を洩ゆ。直小返書と射報させ

披札令拜見。俟我。俟雖及出。後此地俟。亦出之。攻城之。不存。今又與足。合戰之。望之。俟。只唯。永對陣。可致。俟。同軍之。方術者。可被。任。其。許。之。思。意。依。而。返。書。如。件。

天正十年四月廿六日

柴田修理進

上杉彈正少河殿

食田長尾。俟。これ。成。看。大。子。怒。り。直。地。小。弛。着。致。陣。の。柵。と。破。り。さ。ま。ぐ。悪。口。一。つ。ふ。柴。田。の。先。隊。堪。か。り。炮。矢。と。兩。霰。と。擊。發。を。こ。れ。が。つ。ら。小。食。田。佐。又。を。傍。騎。馬。と。擊。手。俟。と。れ。傾。く。成。看。紫。田。勢。大。將。の。指。揮。も。う。ち。ま。れ。二。十。騎。を。り。門。を。開。き。突。發。す。る。小。佐。又。を。傍。騎。さ。り。破。と。起。揚。り。冷。少。振。り。擲。る。菟。と。小。食。田。を。懸。き。於。そ。れ。後。け。と。一。駿。小。吐。と。馳。進。小。ぞ。柴。田。陣。子。も。挽。ら。ひ。得。ま。一。百。餘。人。憤。發。を。一。送。小。猛。戦。け。る。小。ぞ。戰。場。さ。る。が。火。焰。の。如。く。擊。つ。毆。ま。り。烈。殺。け。る。が。勝。家。怒。り。自。方。と。制。し。兵。士。と。収。め。陣。門。を。固。く。固。し。一。騎。も。出。さ。り。な。れ。上。杉。方。も。俟。べ。き。や。う。な。り。

凱歌はくろく退陣しり。

森瀧川（上）信殺（越）後属森謀得勝

一身都（是）是膽（劉）玄徳（子）龍（と）賞（せ）英言（か）る（ふ）それ

さく（と）らぬ景勝（が）斥候（の）崩（ま）ろ（と）大軍（も）追（ん）と（し）ける（が）

い（ま）と（し）熟戦（の）時（至）ら（る）う（り）其（の）閣（さ）ろ（と）厩橋（の）城主（瀧）川

左近將監（一）益（へ）此頃（北）條（と）對戦（せ）ら（る）猶（子）瀧川（儀）太

夫（小）一（万）餘（騎）率（後）させ（二）國（嶺）より（乱）入（せ）ん（と）す（開）も（這）

嶺（へ）信濃（上）野（越）後（の）之（洲）これ（が）境（と）る（ふ）より（嶺）の（名）こ（し）て

最（も）峻（岨）の（鋭）所（あり）上（杉）方（の）防軍（と）す（這）嶺（と）小陣（と）結

び（待）設（て）る（隊）將（へ）栗（生）美濃（守）栗林（肥）赤（守）栗林（肥）赤（守）

松本（左）馬助（高）格（修）理（亮）倭（一）千（二）百（有）餘（人）嶺（の）要（崖）小

武田退治
小居
八州の
願也
願也
願也

豫（て）より（陣）を（張）て（ぞ）待（蒐）る（當）天（へ）四（月）廿（二）日（瀧）川（儀）太（大）

詮（益）正（軒）小（馬）と（躍）らせ（喊）張（作）て（騫）地（小）攻（登）る（上）杉（方）

ハ（嶺）上（小）快（より）期（一）万（事）を（れ）喊（を）合（さ）る（程）を（可）し

炮（矢）木（石）天（も）地（も）黒（む）む（る）り（小）射（蒐）蒐（投）蒐（軒）隊（を）大（小）

惱（乱）せ（せ）凌（登）と（ろ）栗（生）高（橋）六（百）餘（人）喚（と）突（破）し

燈（岨）を（真）逆（小）斬（と）落（せ）瀧（川）の（軒）兵（一）歩（も）縮（ら）ず（唯）

一（碎）小（敗）走（ま）る（を）栗（生）高（橋）得（と）り（や）得（と）り（と）追（蒐）る（と）

乱（殺）ま（る）み（ぞ）瀧（川）の（勢）片（時）の（際）小（四）百（餘）人（撃）死（あ）し（一）里

降（退）る（猿）が（京）小（陣）結（け）る（栗）林（松）本（倭）再（ひ）那（地）逆

進（し）て（烈）戦（ま）る（と）結（り）け（り）諸（亦）信（房）岩（村）の（城）主（森）勝

長（一）高（坂）源（吾）春（日）周（防）守（倭）が（勢）と（率）一（万）二（千）有

豊臣記六編卷之八

餘人大田切より乱入せんとす。是日同月廿五日あり。敵後方五掃
崎派又部山崎右衛門尉。登坂刑部丞。安田筑後守。同惣八。新
津丹波守。其勢二千又百餘騎。大田切の後小陣と張る。木の
先陣加久武伊織。落合藤右衛門が八百餘人。妙高山頭山部小治
より南の方。関川まで進んぞり。二陣へ遠藤但馬守。後陣ハ
大將壽長一。高坂春日と一隊不合せり。先陣より六七町ほど
後行より。上杉方の先陣ハ。関川越り戦たやと。掃崎山崎登
坂次才小隊位を操出。既小川を渉らんぞり。後陣小勒
一安田筑後守。速くも進みこれに制し。敵這川をまこと
退き。猶豫しつゝ。矢撃てに理なり。敵の涉るを待て殿下
かゝるす。搦まゝと馬騎旋しと指揮しとね。將率偕小

是と返して。弑量する。木の軍兵。その敵兵の退相あるを。運
氣と脱を突崩せと。何の遠慮もなほらそ。一發小何へ騎投
あり。今を時なり。蒐むやかれと。安田。新津が揮る。搦と。速や
遅しと。掃崎山崎登坂。六百餘人が。鳥銃隊位を。正斜小推
半一。乱密なり。烟霞衝く。破起りた。此烈戦。小加久武。落合
八百餘人も。半と搦られ。右横左横。小敗散し。一二町ほど。退
りたる。傍義長一。これに見ゆ。あふふ。寸時も。撓らふべき。
掃く備へ。鳥銃の勢。八百餘人と。斜小進ませ。上杉勢の正
中へ。二に。二小敵を。奪せ。傍著る。掃崎。山崎登坂。倅が。魁隊
依。右横左倒。小撃倒され。川中へ。突と。聲。落る。傍義長。得より
と。まづ。正魁。小突。奪する。と。落雷の如く。高坂春日が。左右と



森長一
越後不
亂入
先陣加久武
上杉勢と
関川小
戦ふ

扱け。川中より戦ふこと。黄昏迫き小迫ひくるが。双方戦ひ
 疲さるね。相退ふことをきりたれ。曉れ四月廿八日。森上杉の
 雙方より。存ひ関川に馳合せ戦ふとあり。上杉の
 謀士安田流後守。遠小森が進み視る。不審き敵の隊伍うれ。
 森忽の軍すくく。制する隙ふちや血気の魁兵。喊く怒り
 て騎進り。森の先陣これに向く。鳥銃を發免餘と合せ
 戦ひけるか。上杉勢の鋒尖結く。森勢遂に退崩され。這方の
 岸へ逃よると。勝小乗する。城後方。初の制止もち忘れ。山岨
 梯倚。登坂。斜撃少く川と馳。喊を作りて退記ける。小森。
 途を失く七八町。曉くも敗走あり。赤川近くありける
 とき。左の山のま腹。和とまると。赤々旗と揮記るか。暗号あり。

右方より春日周防守。高坂源吾が二千餘騎。左より森勝
 義。四千餘騎。あき。露と出。拳より上杉勢の中軍。目的で敵
 發鳥銃。其稠きこと。馳電の像く。これ小當られ。敵兵八百餘。百
 倒。起足の途も看迷するその処。春日高坂森の両勢。鎗は同
 つりり。滅多突小。馳起られ。城後勢。今一騎も遮。侍を。
 天足地首。と乱走を。勝義長一正。斜小馳出。いつく関川も退
 通し。敵を撃つ。二三百。これより。上杉勢。小持刀。鎗の
 落も忘。運の怒。二股を。轡く。逃。森小
 森が副將。遠藤。佃馬守。昨夜密小川を渡り。敵の隊伍の
 後山小。潜却て埋伏せ。時分。いと預てより。積累する。拮
 紫。一度小火と放焼起る。火。燄。天小。沖る。像く。其感。小就て



森林勝蔵
計略之
構へ
大田切取
斬取る

早稲田記



早稲田記

遠藤勢。鳥銃擊。記喊とつらう。天地も崩れ勢威とす。疲
果る上杉勢の。横際より殺奪しければ。これ小碓比。魂奪れ。
幸中。関山驛まで。敗崩る。この城小入る。景勝へ。救の兵
を求めり。茲小亦。長九所左。勝門連。統といふ一將あり。誠。後攻
と。同ト日小。統登の。固小攻入る。が。連。統。智。勇の名將。これ。忽
地能登と。斬平らげ。這事と。りて。勝家小注。伸小及。び。り。是
森。勝。義。が。大田。切。を。斬。取。り。告。と。時。日。と。同。あ。せ。り。然。わ。る。上
杉。景。勝。へ。緒。方。敗。軍。の。告。と。聆。今。の。魚。津。も。助。け。が。り。本。城
春日山と。堅固小。せり。頭城の。口。防。小。如。む。と。高。城。ら。れ。小。一。決
せ。り。六。月。朔。日。の。亥。の。刻。を。り。小。天。神。山。を。退。搦。ひ。直。に。景
勝。へ。馳。り。も。本。城。當。り。て。退。き。り。小。柴。田。の。兵。士。倭。追。撃。せ。ん

と。驍。起。を。勝。家。制。止。す。こ。も。陣。と。動。く。さ。り。り。り。

柴田勝家以謀陷魚津城属於變還軍

通天通地の鬼神ども。滅ぶる時を。い。り。め。せ。ん。然。わ。る。小。魚。津。の
城小。守將。右。に。い。り。も。更。なり。河。田。豊。茶。守。と。い。ふ。智。仁。勇。義
を。兼。備。せ。り。名。將。の。あり。ま。り。長。大。小。の。勝。が。り。昨。夜。既。小
大將。景。勝。本。國。へ。退。去。り。れ。ば。今。の。意。城。ま。り。ま。り。も。武。名。と
減。さ。る。牢。城。ま。り。と。心。と。決。り。在。り。り。浩。る。所。小。六。月。二。日。
勝家一の。計。幾。と。設。け。長。家。津。に。本。城。邊。を。使。者。と。あ。り。
城へ。京。遣。ま。り。り。先。日。大。田。切。の。要。崖。破。れ。り。森。勝。義。長。一
本。國。春。日。山。へ。乱。入。せ。り。小。景。勝。退。去。せ。れ。り。各。今。の。牢。城
給。り。這。城。を。り。小。通。與。さ。れ。る。小。和。勝。小。及。び。人。質。と。遣。り。を

べしと言行けるもぞ城將若江諸將と集りて。これ高城子
 及をれらるるが衆心一區なりたるも。中条越前守面する
 る。敵今使者と遣へりて。多く偽りなり。然も敵の
 計強小就る。臨機愈變小謀るあり。危をのり安し。弱
 をのり強と解んこと。難くも。今其方術と預凡いなり。
 天其復の最中一々。火攻となす小よき時節あり。敵に
 當城の本丸と獲ると信り。自方の勢いも二の丸小備陣を
 て。風の起るを暗号と定め。火矢とめり。本丸と焼起るの
 あり。敵の又方と敵ふあるも。十の勝利を得んありと
 必定あり。と勅め小諸將もこれ信り。評定ら小父一
 けり。何田豊前守小一言も出さるあり。心中小深慮あり

ん莞示と笑ひ。中条氏の謀畧ハ。最妙計なりと。危
 り。石卵の争り。然も小怪一變あり。今朝西南の方と
 親る小。殺氣漫く。潮が如し。是敵陣の凶變也。自方
 の為小。吉瑞とらん。然も危き事を謀るも。堅固小守
 城も。直されと神小も通さる。もりの一言。是當日ハ
 六月二日中。本能寺の變小當れり。浩々名將あり。なす。
 滅ぶべき所節。列女也。小道々道なり。然も小諸
 將これを用ひ。中条が計強を良し。遂小使者。本丸
 を撰まづ。首返答。これ。溝口直地小馳戻り。勝敵小斯
 と告げるも。然も人質の準備をせんと。浮味小次と招かれ
 る。开も。這小次と。り。者ハ勝敵の愛居あり。過

朋友と殺し。刑まじき科ありしと。助命し置らる恩あはれ。人
 質の換命ふあさんと。始終の事と謂合り。小次次をりて紫田
 三九郎と号呼らせ。城腹取ふ佐内蔵助と向せり。密
 謀とて謀合せ。火具等もそつ小運せり。魚津の城小投ら
 せり。城外も示されく小畧なり。準備せさせり。紫田の
時宮崎の
上棋の邊宮崎小あはれあり 城中もまじ其準備し。待小除
 もなり。紫田の人質。三九郎勝正と先小立させ。次は佐
 成政又百餘騎ふく入事。人質とて右京左衛門。本丸と順
 取んとす。上杉方へ誘ふ期し。事あはれ。今看し。這敵五
 百を。火攻ふるさんと心小執ひ。事小本丸と佐小撲し。右
 江。中条河田倭へ食二の丸小退行する。双方合し。安坐せし

とおろしき當天。樹末楓くと揺出。東南の風の起る。香や
 佐内蔵助。暗号の一炮。响りたる。又百の射兵。矢末と
 絞して待たせられ。矢の根小火と着無二を。二の丸
 の中へ射込せり。右江中条これ伏看。斬るをり小驚願
 かり。嗚呼朽憾や謀畧の程を。敵徒小取らる。今い
 えやこれまをあるぞ。死ねや。と撃て出。此狗浮味小次
 次。爆る音と聆りも。今最期の時あり。番兵の刀拵り
 速く。二人と左右斬り棄。石田采女柳と看るより。南
 無三々り逃ると察。より。小領属の人質と捉逃し。とら
 推拵遮ゆる。小次次透き。采女が右腕刀と共小破る。落し。
 其所へ蹴倒し。二股小を割付。右江喜四郎速くも馳傍。



魚津落城
 人質浮味
 小次郎
 撃死
 成吉



持の方より乳の下まで。砍下られたる將の浮味。嗒とも叫んで
 死にけり。這時佐く成改。二百餘人と一齋小推出させて。
 二の丸と攻まると。太至急なり。浩るところ小面門より。紫田の
 大軍漏が像く。乱入する息とも次せに。は方八面より攻ま
 けるもぞ。了將強勇の上校勢。中条竹股。龜田。あひひく
 小戦死せり。あうも悍勇。目小溢り。河田豊。茶。宗。幸。子。
 款と毆と。一百餘人。其身も深。残と。十三箇。不。う。け。く。云の丸の
 寨樓。小登り。潔く。肚。挫。到。て。滅。さ。う。ん。惜。む。ぐ。嘆。ぎ。ぐ。
 今。城。中。款。一。人。も。あ。ら。ざ。れ。ば。柴。田。勝。家。佐。成。改。倫。凱。歌
 を。揚。る。こ。と。三。吐。り。て。諸。軍。小。そ。れ。賞。と。行。ひ。これ。より。直
 地。小。城。後。の。圍。く。乱。入。ま。ぐ。と。諸。將。と。集。め。高。嶺。を。ん。然

る。小。當。天。の。六。月。又。日。暮。天。小。向。と。け。る。こ。ろ。茶。田。玄。以。法。印。より。
 勝。家。が。陣。へ。急。使。來。り。て。昨。六。月。二。日。京。都。本。住。寺。を。び。小
 二。條。の。城。小。お。ろ。右。大。法。教。所。父。子。明。智。光。秀。が。致。送。小
 よ。ろ。く。所。生。害。ま。り。く。早。ぬ。此。小。圍。く。丘。時。も。速。く。上。洛。あ
 り。送。信。光。秀。と。殊。せ。ら。る。く。其。旨。を。も。て。告。り。て。紫。田
 勝。家。を。敵。と。し。て。佐。く。成。改。本。田。利。家。佐。久。間。盛。改。其。外
 の。諸。將。群。衆。小。至。る。ま。た。是。の。後。小。あ。ら。ま。る。り。這。災。ハ。天
 より。や。降。り。地。より。や。沸。え。ん。り。日。ま。さ。き。と。聲。を。放。り。驚
 嘆。一。箇。夜。の。滅。焼。風。濺。の。折。摺。せ。れ。一。意。味。し。く。騒。動
 す。る。こ。と。傳。り。あ。一。這。事。を。も。て。森。勝。義。流。川。左。近。く。も。若
 々。る。あ。ぞ。誰。の。驚。く。ま。る。ん。動。働。ま。る。こ。と。確。々。あ。ら。ま。る。る。

時小勝家諸將と集りて重きられり。所々君不之憂の
 義小より。遂に明智光秀小弑せられり。俺們片
 時も這所小。在陣する陣あつて。直地小京都へ馳
 登りて。遂に賊と代亡君の所魂小報ひ奉らん。門に准備あ
 べし。諸陣へ徇り。魚津の堀より。佐久間久右衛門同原六
 小五百餘騎と副留置。六月六日の曉天小。務家一番
 馳出。京都と當り。登りて。佐久間と。自後
 自後と馳起。隊伍と乱し。退去し。驗小未嘗
 有の椿事あり。宜るる。好車門と出。悪事千里と走
 と。速くも上杉家へ。馳く。景勝。大悦喜。去
 来や務家。成改係が。慌忙退返す。後路退蒐り。撃投や。

と直に山城守。本庄出羽守。宇佐兵衛。後河守。係小千餘人。
 接小搦ぎ。追り。加越の境。石動の郷と過る。柴田
 勢小。端あり。追着。有る。論る。喰止る。柴田が。殿並
 佐久間盛政。期と視る。より。火急小指揮なり。後隊伍と
 翻し。そのま。小斜隊。より。炮矢と放ち。防戦する。と。
 上杉勢。ま。も。搦ぎ。直に。本條。森藤。忌野。諸將。より
 うち。論と。わけ。從横。を。得。小。突。蒐。り。喚。呼。り。攻。起。け。る。小
 ぞ。佐久間も。這路と。破られ。と。勇と。搦。り。戦。ふ。も。柴田
 勢。心中。各。京都。の大。變。小。怖。され。ける。由。急。亂。行。の。軍。兵
 る。れ。忽。地。小。崩。崩。され。廻。り。小。退。起。られ。る。佐。が。隊。伍。小
 崩。蒐。る。佐。成。改。業。田。勝。豊。拈。り。返。り。戦。ふ。り。と。も。

極猛至勇の誠後勢、洋流活々、突起られ、総崩ふるり、
 千轉万落、撃つ、兵卒、勇気、知れ、時、大將、勝家、旗
 本の勢、二百餘騎、佐久間、佐々、先達、着、獲、の、圍
 ま、登り、上、杉、勢、追、撃、せ、ら、れ、自、方、敗、軍、の、よ、を
 勝、勝、大、不、驚、願、か、い、か、せん、と思、急、る、け、る、今
 上方、事、急、る、れ、も、衆、軍、と、捨、て、我、獨、都、不、登、り、
 々々、光、秀、も、尋、常、の、敵、不、り、せ、激、勢、の、對、戦、代、損、ト、
 後、代、ま、の、恥、辱、不、なん、如、也、這、地、より、翻、行、上、杉、勢、と、追
 散、後、陣、の、方、へ、急、ぎ、け、る、然、る、上、杉、勢、ハ、續、次、軍、勢、馳、加、り、
 佐、久、間、と、散、く、不、駭、惱、し、る、その、を、
 柴、田、勝、家、撰

際、より、二、三、之、一、擲、く、投、る、極、威、烈、然、こ、
 後、勢、へ、これ、を、紛、く、然、こ、
 上、杉、勢、も、名、高、き、勇、軍、這、と、敗、ら、
 ある、もの、な、ん、と、粉、骨、を、
 の、像、く、西、北、の、方、不、雷、紀、り、
 へ、大、橋、を、輾、ま、不、似、く、太、刀、行、も、更、不、視、
 東、西、別、し、る、る、不、前、田、又、左、勝、
 を、勝、驚、願、悲、歎、の、心、を、
 心、策、さ、
 鬼、て、城、と、燒、す、敵、陣、強、動、
 際、不、
 魚、津、不

出。其夜のうち不烈く走り。高岡邊まで来りける。夜も去りくと明なれば。今ハ氣悩ふところなり。國境を退取。自方の歸路を助ぐべし。俱利伽羅山の殺所なり。埋伏まき。十日不及べり。十七日大風雨の夜。柴田が退去。不都合なれば。さうおわく。勝家不付あえれ。濃呂雷て引退く。翌々曉天上杉勢ハ存ひ進来て看る。敵一人もあざれば。後洛進菟んと并めさける。直江系継これ紙制止。遂不誠後へ退返し。り。皆も柴田希田の諸軍ハ道依地ること。炮矢の像く。同月十八日の正午刻頭。江州折テ瀬不着陣せし。羽柴筑希守秀吉方より。飛脚直り。過天十二日の一戦。不遂賊明智光秀を山崎ふおろ

伐敗り。首級日圓不梟する詞ま。仔細不若たれば。後家驚きま。あゝ。蹉蛇し。遅き。後悔めど。今ハ於方。あゝ。最早入洛ま。も益あ。り。その終尾。清洲へ赴き。つ。森勝藏。所。遂變。還軍。上方。属。清洲。大會。仁義。不諱。き。國。へ。鬼神。これ。責。れ。も。天。これ。紙。覆。後。一。地。これ。紙。安。投。ま。樂。し。ひ。う。れ。上。杉。家。の。行。政。あ。る。や。斯。く。又。森。勝。藏。長。一。ハ。大。田。四。口。より。紙。後。不。攻。投。り。関。川。野。原。の。街。道。不。敵。の。首。塚。を。殺。遣。々。築。連。岡。山。邊。ま。を。殺。奔。し。二。本。末。と。い。ふ。所。不。陣。を。結。り。橋。上。杉。の。本。城。を。春日。山。へ。推。進。せ。んと。軍。機。專。要。あ。る。と。さ。う。く。柴。田。勝。家。より。急。使。

来りて。右大臣殿所父子の明智とて小弑せられひきりて。若
 幹の所採望の所端を知れ。狂乱の如く小哀哭す。と
 実小さあらん。勝義へ右大臣殿の寵と被りたる緯蘭丸小
 も若くさるも。蚕くも岩村の城とあり。忠功もす。衆小
 報り。これ小周く。這遭の大變と。幹とひきりて。やこれ光秀の
 大逆賊り。手て。安穩小かくべ。各速小上洛。俱不戴
 天の怨歎と。代之。君の所。買小供。呈んもの。と。執柄も。松教を
 信州の居城小弛。帰り。伊奈の城。主。毛利。内守。を。相。付。ひ。
 登。上。方。へ。桑。見。せん。と。す。時。小。信。州。春。日。の。任。人。春。日。周。防。
 守。森。長。一。小。所。と。容。く。見。下。這。遭。上。洛。を。多。ふ。俺。們。が。人。
 質。と。還。一。む。れ。恐。る。は。小。あ。ら。ん。兵。と。登。し。て。上。洛。の。路。次。

妨げぬんと。虚以竊く。心成變トける。小を。勝義長。一。大小怒り。
 憎き春日が。不行。よ。於。汝。係。京都の變と。幹と。各。が。勇。猛。の。
 折けも。や。ま。と。浩。る。不。義。の。詞。を。桑。を。汝。係。紙。令。總。勢。小。く。
 攻圍む。も。あ。ら。ん。怖。れ。ん。不。義。の。者。小。自。方。と。い。つ。と。も。決。
 人。質。へ。通。す。と。怒。暴。ら。ん。小。罵。り。た。れ。ば。春。日。と。を。ト。め。
 國士輩。做。べき。や。ら。ん。と。怯。在。た。れ。ば。勝。義。長。一。緒。勢。と。率。て。
 所。時。小。岩。村。と。進。兵。す。一。兵。濃。國。向。を。れ。け。る。が。春。日。乃。
 一。族。國。士。係。人。質。と。り。取。返。さん。と。道。洛。小。透。妨。け。る。法。
 事。と。も。あ。ら。ん。猶。義。正。斜。小。進。ま。ん。陰。換。俾。く。諸。率。小。指。
 揮。小。斬。捲。く。數。據。の。款。を。悉。く。擊。滅。せ。上。方。當。て。登。り。
 ける。が。猿。馬。場。と。い。小。處。を。長。一。指。揮。一。春。日。あ。ら。ん。小。國。士。



條の人質殘るを斬殺し。遂に六月十七日濃州岐阜より着
 ける所へ統率守秀より。山崎合戦の始終を詳し使報
 されば是も上洛するとも終るべしと尾州清洲へ集會する。
 开も諸將の斯くも清洲の城に會合す。原末這城
 その始首は織田家之姓の地あるゆゑ濃州岐阜城成徳の
 後信長彼城に搬らせ玉ひ。清洲をめぐり信忠卿に譲られ
 けるが安土在城ありけるより。信忠岐阜へ移られければ
 清洲とありて二男信雄に譲られたり。是より信雄卿
 父信長の大變を所諸方へ徇て這城に諸將と會せしむる
 緯織田家相續の大商議を做さんか為の政企あり。是より
 右大臣信長公の所胤家の次第と鞠れば其右大臣の令正

閣へ藤藤道二が息女をれども正胤よりすまらざりて
 腹中にて出生させ玉ふを正胤の養君とゆふ是則二位中
 將信忠卿あり。信忠卿の実母は尾胤生駒の女なり其翌年子とて公達二公生れ玉ふ
 一公は信雄子とて信忠卿と同腹あり。是より信雄より上下の家
 臣崇尊まると。所嫡男に次されば此二男と定めらる。
 今一公は坂氏の女の胎を得て鬼子とて這母儀凡下の人
 あるがゆゑ勢田の宮の神司とする。園本何某の宅におく
 分悦されたり。是故号けし信孝といふ。然るに信孝の出生は
 信雄より廿日むらりも先達しうとも信雄の出産後、所関
 小達しされば。二男と定めり。信雄の信孝を信孝とて
 を會て二男二男の中不和ありとを是より亦亦田徳若院

云以法中ハ六月二日二條不在リ。中將殿の最期不在
 之。御遺言と慕り。正一文字小岐阜へ馳着初君之法則
 君と伴ひまわらせ清洲の城へ退散。日野の城も蒲生右
 兵衛大夫賢秀も正隆初君と守護しまわらせ安土と退く
 居城不在けるが斯くて持ちがらるべし。同く清洲小馳
 集り猶も款徒の攻めん事と慕り。防索の准備嚴まる。その
 ころ小秀吉中國より第一番小馳登り。山崎小おいて一戦
 小遂後と悉依し。一りやど小。諸將始々安途あり。哭悲
 の中小欽喜の罷用も。是正一筑前守の勲功あり
 と仰け。天も高き小比せを思ふ海も深き小くらんと。
 感服まもぬ多るるなり。疾り純る人こそありけれ。彼

三男と申す神戶侍従信孝ハ秀吉と偕小緒軍を率き。
 山崎合戦小遂後と滅し。亡父の靈魂を慰むとつとも。是
 會秀吉の援助あるや小。大欽明智小對戦せし。然る小
 秀吉山崎の軍小捷てより。自茲と権威相紫と帰して。宛
 百川の東まるといふ。諸將の尊敬格別るれば。信孝ハあり
 べきあきか如く。筑前守植然とて。棟梁の風見えたり。信
 孝忽地編執の心を起し。秀吉と嫉むと一應あるを。密
 小思慮と旋らしけるなり。柴田修理進勝家ハ。原来織田
 家の一腕なり。武勇も衆小秀吉。然バ渠小特擧強き
 羽柴と殿滅さんと。まづ清洲城小泰會して。密く柴田勝
 家と招き。這一陣と謀らんと。勝家元來秀吉と。快



織田家の
 諸將清洲の
 城小大集
 會と成を

豊臣記 十六卷之八

かゝる中なるべし。速小受議事。甥ある佐久間玄蕃と招ぎ。勝家密小重を命ず。這遭高橋の席小おろし。吾小細と返す輩一人たりともあざむくべし。然る小吾と恐れぬ者。羽柴秀吉のそららん。渠ハ勿く誓ひて。人の下小立のあざむ。数年大望の礎柱なり。外面小仁信禮義と正族内を去深く謀畧と義秘。明智光秀いりくく。渠小勝ことあざむ。き。今天下の大變小乗ト。緒彦と假小義盟と結び。自己か所志と達人と謀れ。必定渠が謀畧の罟小陥く。耻辱と被る縁故あり。機會とゆき。罪と負せ。筑前守を殊戮し。我掌とゆき。治國せんとい。然るも斯と執罪する。秀吉が身小科も事。如くせば事起らん小。其時足下勇とゆき。

撃果されしと計議と譚ト評議の席小向ちられし。然るも清洲城あり。所家督決定の評議をるさんと。泰會せしり。門くあり。北畠信雄神戶信孝中將殿の所嫡子。二法師丸。又手赤緋代の緒將あり。柴田勝家。羽柴秀吉池田勝入。父子。丹羽長秀父子。蜂屋頼隆。最田利家。佐く成政。森長一。堀秀政。外様の個々。小。筒井順慶。細川藤孝。父子。中川清秀。高山長房。他。在京の緒將。いり。小。迨を。近國の緒士も悉く。這城中小泰會せられ。大商強小を及むれり。

繪本豊臣勲功記六編卷之八終

任此江
名産

翠末醬

江の清或後保の翠末あり
玉極珍なり

松魚書
でんぶ

松花

土佐のうを以て書きたるぶを
世上の田主といふなりかぶ

薬採書

胡麻末醬

兼血を補ひ腎精と云ふ
固をあきうかふに効あり

別製

雲魚末醬

是も本作のつとを考へて
み致中の最上古今草紙の云

極製

紫菀末醬

江の清ふらうり 此の中を極め
兼之行 兼て益能あり味あり

仙傳

不老末醬

此みそを子孫傳ゆまはす病かし
て長あをきめめでさふあり

法之乎を
大みかき

はこべし

新製 此の肉を歯をみかき
生液のこぬりうきいあり

本家製造所

大阪道修町通
淀屋橋筋末久

松川翠葉堂

ふ巻風流曲物
入りてつまのむ
つても日教いん
あつとも風流扱
さるるのあはれ物
あつとも日教いん
あつとも日教いん
あつとも日教いん
あつとも日教いん

